



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2020.11

No.440

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



埼玉の野鳥チェックリスト(中文版)を作成して

= 思ったこと、考えたこと =

近藤 龍哉(上尾市)

先月号の特集を執筆してくださったお一人の近藤龍哉さんから第2弾、第3弾が届きました。その2本を合わせてご紹介します。

● 中文名の簡潔さ

先に「中文名は簡潔がいい」と書いた。リストで見ても、最長で6文字、一番短いのは

ミサゴでわずか1文字。一番多いのが3文字で、4文字あれば88%の種名がカバーできる。和名(カタカナ)の場合は、最長は12文字、

埼玉の野鳥 343 中文版 ※フォントにないものは+により合成

No.	和名	中文名	記録	No.	和名	中文名	記録	No.	和名	中文名	記録
1	ウスラ	鸕鶿		61	コシシロウミツバメ	白腰又尾海燕		121	オオハシギ	长嘴半蹼鹬	
2	コジュケイ	灰胸竹鸡	62	クロウミツバメ	烟黑又尾海燕		122	シベリアオオハシギ	半蹼鹬		
3	ヤマドリ	鋼長尾雉	63	ナベコウ	黑鶺鴒		123	オグロシギ	黑尾鳾		
4	キジ	雉鸡	64	コウノトリ	东方白鶺鴒		124	オソリハシギ	斑尾鳾		
5	ヒシクイ	豆雁	65	コウカンドリ	白斑军舰鸟		125	コシャクシギ	小杓鹬		
6	マガン	白額雁	66	カツオドリ	褐鯉鸟		126	チュウシャクシギ	中杓鹬		
7	カリガネ	小白額雁	67	カワウ	普通鸕鶿		127	ダイシャクシギ	白腰杓鹬		
8	シジウカラガン	短嘴黑雁	68	サンカノゴイ	大麻开+鸟		128	ホウロクシギ	红腰杓鹬		
9	コクガン	黑雁	69	ヨシゴイ	黄苇开+鸟		129	ツルシギ	鶴鹬		
10	コハクチョウ	小天鹅	70	オオヨシゴイ	紫背苇开+鸟		130	アカアシシギ	红脚鹬		
11	オオハクチョウ	大天鹅	71	リュウキョウヨシゴイ	栗苇开+鸟		131	コアアシシギ	泽鹬		
12	ツクシガモ	翘鼻麻鸭	72	ミソゴイ	栗头开+鸟		132	アオアシシギ	青脚鹬		
13	アカツクシガモ	赤麻鸭	73	コサギ	夜鹭		133	オオアカシシギ	大青脚鹬		
14	オシドリ	鸳鸯	74	ササゴイ	小绿鹭		134	クサシギ	白腰草鹬		
15	オカヨシガモ	赤膀鸭	75	アカガシラサギ	池鹭		135	タカシギ	林鹬		
16	ヨシガモ	罗纹鸭	76	アマサギ	牛背鹭		136	キアシシギ	灰尾漂鹬		
17	ヒドリガモ	赤颈鸭	77	アオサギ	苍鹭		137	ソリハシシギ	翘嘴鹬		
18	アメリカヒドリ	绿眉鸭	78	ムラサキサギ	草鹭		138	イソシギ	矶鹬		
19	マガモ	绿头鸭	79	ダイサギ	大白鹭		139	キョウジョシギ	翻石鹬		
20	カルガモ	斑嘴鸭	80	チュウサギ	中白鹭		140	オハシギ	大滨鹬		
21	ハシビロガモ	琵嘴鸭	81	コサギ	白鹭		141	トウネン	红胸滨鹬		
22	オナガガモ	针尾鸭	82	クロサギ	岩鹭		142	ヨーロッパトウネン	小滨鹬		
23	シマアジ	白眉鸭	83	ヘラサギ	白琵鹭		143	オジロトウネン	青脚滨鹬		
24	トモエガモ	花脸鸭	84	クワツラヘラサギ	黑脸琵鹭		144	ヒバリシギ	长趾滨鹬		
25	コガモ	绿翅鸭	85	マナヅル	白枕鹤		145	アメリカウズラシギ	斑胸滨鹬		
26	アカハシハシロ	赤嘴潜鸭	86	ナベツル	白头鹤		146	ウスラシギ	尖尾滨鹬		
27	オオホシハシロ	帆背潜鸭	87	アネハヅル	蓑羽鹤		147	サルハマシギ	弯嘴滨鹬		
28	ホシハシロ	红头潜鸭	88	灰胸クイナ	灰胸秧鸡		148	ハマシギ	黑腹滨鹬		
29	アカハシロ	青头潜鸭	89	クイナ	秧鸡		149	キリアイ	洞嘴鹬		
30	メジロガモ	白眼潜鸭	90	シロハラクイナ	白胸苦恶鸟		150	モンシギ	黄胸鹬		
31	クビウキンクロ	环颈潜鸭	91	ヒメクイナ	小田鸡		151	エリマキシギ	流苏鹬		
32	キンクロハシロ	凤头潜鸭	92	ヒクイナ	红胸田鸡		152	アカエリヒレアシシギ	红颈瓣蹼鹬		
33	スズガモ	斑背潜鸭	93	ツルクイナ	董鸡		153	ハイロヒレアシシギ	灰瓣蹼鹬		
34	シロガモ	丑鸭	94	バン	黑水鸡		154	レンカク	水雉		
35	アラミキンクロ	斑头海番鸭	95	オオバン	白骨顶		155	タマシギ	彩鹬		
36	クロガモ	黑海番鸭	96	ジュウイチ	北麝鹬		156	ヤマチドリ	普通燕鸥		
37	ホオジロガモ	鹊鸭	97	ホトトギス	小杜鹃		157	ミツユビカモメ	三趾鸥		
38	ミコアイサ	斑头秋沙鸭	98	ツツドリ	东方中杜鹃		158	コリカモメ	红嘴鸥		
39	カワアイサ	普通秋沙鸭	99	カッコウ	大杜鹃		159	ウミネコ	黑尾鸥		
40	ウミアイサ	红胸秋沙鸭	100	ヨタカ	普通夜鹰		160	カモメ	海鸥		
41	カイヅツリ	小鸕鶿	101	ハリオアマツバメ	白喉针尾雨燕		161	シロカモメ	长极鸥		
42	アカエリカイヅツリ	赤颈鸕鶿	102	アマツバメ	白腰雨燕		162	セグロカモメ	银鸥		
43	カンムリカイヅツリ	凤头鸕鶿	103	ヒメアマツバメ	小白腰雨燕		163	オセセグロカモメ	灰背鸥		
44	ミミカイヅツリ	角鸕鶿	104	タグリ	凤头麦鸡		164	ニセセグロカモメ	小黑背鸥		
45	ハシロカイヅツリ	黑颈鸕鶿	105	ケリ	灰头麦鸡		165	コアシサシ	白额燕鸥		
46	アカオネツタイチョウ	红尾鸲	106	ムナグロ	金鸠		166	セジロアジサシ	白腰燕鸥		
47	キシバト	山斑鸠	107	アメリカムナグロ	美洲金鸠		167	コゴアジサシ	乌燕鸥		
48	シラコバト	灰斑鸠	108	ダイゼン	灰鸠		168	アジサシ	普通燕鸥		
49	アオバト	红翅绿鸠	109	イカルチドリ	长嘴剑鸻		169	クロハラアジサシ	须浮鸥		
50	アビ	红喉潜鸟	110	コチドリ	金眶鸻		170	ハシロクロハラアジサシ	白翅浮鸥		
51	オオハム	黑喉潜鸟	111	シロチドリ	环颈鸻		171	ハシグロクロハラアジサシ	黑浮鸥		
52	シロエリオオハム	太平洋潜鸟	112	メダイチドリ	蒙古沙鸻		172	オトウゾクカモメ	灰贼鸥		
53	コホウドリ	黑背信天翁	113	オオメダイチドリ	铁嘴沙鸻		173	クロウゾクカモメ	短尾贼鸥		
54	クロアシアホウドリ	黑脚信天翁	114	オオチドリ	东方鸻		174	シロハラウゾクカモメ	长尾贼鸥		
55	ハシロミズナギドリ	棕头圆尾鹱	115	セイカサギ	黑翅长脚鹬		175	マダラウミスズメ	长嘴斑海雀		
56	シロハラミズナギドリ	白额圆尾鹱	116	ヤマシギ	丘鹬		176	ミサゴ	鸕		
57	オオミズナギドリ	白额鹱	117	アオシギ	孤沙锥		177	ハチクマ	凤头蜂鹰		
58	オナガミズナギドリ	曳尾鹱	118	オオシギ	澳南沙锥		178	トビ	黑鸢		
59	ハシロミズナギドリ	短尾鹱	119	チュウシギ	大沙锥		179	オジロフシ	白尾海鹞		
60	クロシシロウミツバメ	斑腰又尾海燕	120	タシギ	扇尾沙锥		180	オオフシ	虎头海鹞		

90%カバーするには8文字が要る。「ハイチュウ」「ピロキン」などの省略形もよく耳にするところだ。

和名も漢字で書くことも出来るし、書けば見た目は少し短くなるけれど、私の言う「簡潔」は見た目だけのことでなく、実際に声にした時の音節数に関わってのことなのだ。

中国語では、1文字は必ず1音節で発音される仕組みになっている。例外はあるが、文字と音（音節）と意味が三位一体で最少の単

位を構成する。

ミサゴを例にとると、中国では漢字の「鸚」1文字で表され、[e]と1音節で発音される。日本語ではミサゴは3文字3音節、漢字を音読みして[ガク]と読んでも2音節は必要だ。台湾では「鸚」ではなく「魚鷹」とする。実は「魚鷹」は、通称としては中国でも使われているのだが、ウの俗称としても使われることがあるので少しまずい。

ウといえば、和名の中でも最も簡潔ないい

埼玉の野鳥 343 中文版						※フォントにないものは+により合成					
No.	和名	中文名	記録	No.	和名	中文名	記録	No.	和名	中文名	記録
181	チュウヒ	白腹鸚		241	イワツバメ	烟腹毛脚燕		301	スズメ	麻雀	
182	ハイイロチュウヒ	白尾鸚		242	ヒヨドリ	栗耳短脚鴨		302	イワミセキレイ	山鶺鴒	
183	マダラチュウヒ	鶺鴒		243	ウグイス	日本樹鶯		303	ツメナガセキレイ	黄鶺鴒	
184	ツミ	日本松雀鷹		244	ヤブサメ	鱗頭樹鶯		304	キガシラセキレイ	黄頭鶺鴒	
185	ハイタカ	雀鷹		245	エナガ	銀喉長尾山雀		305	キセキレイ	灰鶺鴒	
186	オオタカ	蒼鷹		246	チフチャフ	叽喳柳鶯		306	ハクセキレイ	白鶺鴒	
187	サシバ	灰臉鷲鷹		247	モリムシクイ	林柳鶯		307	セグロセキレイ	日本鶺鴒	
188	ノスリ	普通鷲		248	キマユムシクイ	黃眉柳鶯		308	ビズイ	樹鶺	
189	ケアシノスリ	毛脚鷲		249	オオムシクイ	堪察加柳鶯		309	セジロタビバリ	北鶺	
190	イヌワシ	金雕		250	メボソムシクイ	日本柳鶯		310	ムネアカタビバリ	紅喉鶺	
191	クマタカ	鷹雕		251	エゾムシクイ	日本淡脚柳鶯		311	タビバリ	黃腹鶺	
192	オオコノハズク	領角鶺		252	セントアイムシクイ	冕柳鶯		312	アトリ	燕雀	
193	コノハズク	紅角鶺		253	メジロ	暗綠綉眼		313	カワラヒワ	金翅雀	
194	アクロウ	長尾林鶺		254	シマセンニュー	白鰐鶯		314	マヒワ	黃雀	
195	アオバズク	日本鷹鶺		255	オオセツカ	斑背大尾鶯		315	ヘニヒワ	白腹朱頂雀	
196	トラフズク	長耳鶺		256	オオヨシキリ	東方大第鶯		316	ハギマシコ	粉紅腹岭雀	
197	コミミスズク	短耳鶺		257	ヨシキリ	黑眉鶯		317	ヘニマシコ	長尾雀	
198	ヤツガシラ	戴勝		258	セツカ	棕扇尾鶯		318	オオマシコ	北朱雀	
199	アカショウビン	赤翡翠		259	キレンジャク	太平鳥		319	イスカ	紅交嘴雀	
200	ヤマショウビン	藍翡翠		260	ヒレンジャク	小太平鳥		320	ウソ	紅腹灰雀	
201	カワセミ	普通翠鳥		261	ゴジュウカラ	普通鶺		321	シメ	錫嘴雀	
202	ヤマセミ	冠魚狗		262	キバシリ	旋木雀		322	コイカル	黑尾蜡嘴雀	
203	ブッポウソウ	三宝鳥		263	ミンサザイ	鶺鶺		323	イカル	黑頭蜡嘴雀	
204	アリスイ	蚊龍		264	ムクドリ	灰椋鳥		324	ツメナガホオジロ	鉄爪鶺	
205	コグレイ	小星頭啄木鳥		265	コムクドリ	紫背椋鳥		325	ユキホオジロ	雪鶺	
206	オオアカゲラ	白背啄木鳥		266	カラムクドリ	灰背椋鳥		326	シラガホオジロ	白頭鶺	
207	アカゲラ	大斑啄木鳥		267	ホシムクドリ	紫翅椋鳥		327	ホオジロ	三道眉草鶺	
208	アオゲラ	日本綠啄木鳥		268	カワガラス	褐河鳥		328	ホオアカ	栗耳鶺	
209	チョウゲンボウ	紅隼		269	マミシロ	白眉地鶺		329	コホオアカ	小鶺	
210	アカアシチョウゲンボウ	紅脚隼		270	トラツグミ	虎斑地鶺		330	キマユホオジロ	黃眉鶺	
211	コチウゲンボウ	灰背隼		271	カラカハラ	灰背鶺		331	カシラダカ	田鶺	
212	チゴハヤブサ	燕隼		272	クワツグミ	烏灰鶺		332	ミヤマホオジロ	黃喉鶺	
213	ハヤブサ	游隼		273	マミチャシナイ	白眉鶺		333	シマアオジ	黃胸鶺	
214	サンショウウイ	灰山椒鳥		274	シロハラ	白腹鶺		334	ズグロチャキンチョウ	黑頭鶺	
215	コウライウグイス	黑枕黃鶺		275	アカハラ	赤胸鶺		335	ノジコ	硫磺鶺	
216	オウチュウ	黑卷尾		276	ツグミ	斑鶺		336	アオジ	灰頭鶺	
217	サンコウチョウ	紫寿帶		277	ノハラツグミ	田鶺		337	クロジ	灰鶺	
218	チゴモズ	虎紋伯勞		278	ワキアツグミ	白眉歌鶺		338	シベリアジュリン	苇鶺	
219	モズ	牛頭伯勞		279	コマドリ	日本歌鶺		339	コジュリン	紅頸苇鶺	
220	アカモズ	紅尾伯勞		280	オガウコマドリ	藍喉歌鶺		340	オオジュリン	芦鶺	
221	オオモズ	灰伯勞		281	ノゴマ	紅喉歌鶺		341	ミヤマシトド	白冠帶鶺	
222	カケス	松鶺		282	コルリ	藍歌鶺		342	キガシラシトド	金冠帶鶺	
223	オナガ	灰喜鶺		283	シマゴマ	紅尾歌鶺		343	ザバナンシトド	稀樹草鶺	
224	ホシガラス	星鶺		284	ルリビタキ	橙胸藍尾鶺		soon	カワシロハラミズキドリ	克島圓尾鶺	
225	コクマルガラス	込鳥里寒鶺		285	クロジョウビタキ	赭紅尾鶺		"	ムジセツカ	褐柳鶯	
226	ミヤマガラス	禿鼻鳥鶺		286	ジョウビタキ	北紅尾鶺		"	マキノセンニュー	矛斑蝗鶺	
227	ハシボソガラス	小嘴鳥鶺		287	ノビタキ	黑喉石即+鳥		"	オオカラモズ	楔尾伯勞	
228	ハシブトガラス	大嘴鳥鶺		288	サバクビタキ	漠即+鳥					
229	キウイタダキ	戴菊		289	イソヒヨドリ	藍磯鶺					
230	ツリスガラ	鶺雀		290	エソビタキ	灰紋鶺					
231	コガラ	褐頭山雀		291	サメビタキ	烏鶺					
232	ヤマガラ	杂色山雀		292	コサメビタキ	北灰鶺			ドバト	原鶺	
233	ヒガラ	煤山雀		293	マミシロキビタキ	白眉姬鶺			ガビチョウ	画眉	
234	シジョウカラ	遠东山雀		294	キビタキ	黃眉姬鶺			ソウシチョウ	紅嘴相思鳥	
235	コヒバリ	亞洲短趾百靈		295	ムギマキ	鶺鶺			ホンセイインコ	紅領綠鸚鶺	
236	ヒバリ	云雀		296	オソビタキ	紅喉姬鶺					
237	ハマヒバリ	角百靈		297	オオルリ	白腹藍姬鶺					
238	ショウドウツバメ	崖沙燕		298	イワヒバリ	嶺岩鶺					
239	ツバメ	家燕		299	カヤクグリ	紅岩鶺					
240	コシアカツバメ	金腰燕		300	ニューナイスズメ	山麻雀					

拠拠 日本野鳥の会 埼玉
「埼玉県野鳥チェックリスト2019年版」
2020/6/18 T.Kondo

名前だ。因みに「鶉」は国字（日本製）なので、中国では使わない。中文名では、「盧+鳥」に「茲+鳥」の2文字で発音は[luci]と2音節、画数も多いから、これは和名に軍配が上がる。種名になるとカワウと3文字になるが、中文名も前に「普通」（一般的なの意）をつけて4文字、付けなくてもいいのと思うが、英名にある common を受けてのことだろう。和名には、このほかにバン、ケリ、アビ、ツミ、モズ、ウソ、シメなどいい名前があって、これらはどれも中文名より短く簡潔である。

だが、こうしてリストにして並べ全体としてみた時、中文名の簡潔さは歴然とする。雁、鴨から始めて鶯、鶉、チドリ「行+鳥」、鴝、鶉、ヒタキ「翁+鳥」など、科名や属名を表す1または2文字の漢字が各行の末尾に整然と並んで、分類の境目が一目でわかる。命名の理念が反映した結果といえる。

●キジの中文名で悩む

キジ科キジ属キジ。リストの4番目、作業を始めてすぐにこの中文名で悩むことになった。

山階『中国の鳥(改訂版)』には、キジに「雉鶉、環頸雉」と中文名が並列されていた。後者は首に白い環のあるコウライキジを指すのだろうから、前者でいいはずだ。しかし、念のために『日本鳥類目録改訂第7版』にあたり、その *Phasianus colchicus* という学名から、中国のリストを探すと中文名は「環頸雉」となっている。自分で定めた作業手順とはいえ、唯々諾々それに従うわけにはいかない。

いったいどうしてこんな結果になるのだろうか。どこかに問題があるに違いない。

山階『世界鳥類和名辞典』(1986)では、コウライキジの次の行に *Phasianus versicolor* キジがある。英名は、Japanese (Green) Pheasant となっている。これを中国語に訳せば「日本雉」か「緑雉」となる。

中国の『世界鳥類分類与分布名録』(2002)でも確認してみると、予想通り「環頸雉」の次の項に「緑雉」があった。これに意を強くして一旦は「緑雉」と決めたものの、学名の違いがどうにも腑に落ちない。

もう一度、『日本鳥類目録改訂第7版』のキジを確認すると、亜種が4種並んでいて、その第4番目に *versicolor* があり、キュウシュウキジとある。なんと、日本のキジは格下げされてキュウシュウキジになってしまったのか。いやまて、一番目の亜種名 *robustipes* とあるのが私のよく知るキジらしい。なんという意味かな？ だが、特徴も書いてないし「分布域も明確でない」と書くばかりで、まったく手掛かりにならない。とにかく「緑雉」は保留だ。

気を取り直して調べてみると、最近、日本や中国の学会ではどうやらキジはすべて1種ということになったらしい。最新の『中国鳥類分類与分布名録』(2019)も、Common Pheasant の学名を *colchicus* としていて、亜種が19種も並んでいる。

それだけでなく、国際的に権威のあるリストの『Clements, v. 2019』も日本のキジを *colchicus* に分類しており、しかもその中文名を「環頸雉」としている。学問上1種だとするのはいいとして、2種に分けていた当時の中文名の「環頸雉」をそのままにして置かなんて。すべてのキジの亜種に首の環があるわけはなく、せめて「普通雉」とでもすべきところだろう。誰に向けるべきかはわからないが(たぶん誰もこんな使い方をされるとは思わないだろうが)、抗議(?)の気持ちを込めて、作成するリストの中文名に「環頸雉」は使わず、キジの一般名詞である「雉鶉」(zhiji) を使うことにした。

逆のケースもある。トラツグミ *Zoothera dauma* Scaly Thrush は、その亜種の一つが独立して *Zoothera aurea* White's Thrush となった。日本のトラツグミがそれである。学名も英名も変わったのだが、中国ではこの種の方が多く分布するというので、そのまま「虎斑地鶉」という旧来の名称をこちらが引き継いだが、台湾では英名を受けて「白氏地鶉」と変えた。ホワイトさんには名誉かもしれないが、虎の字が消えたのは少し寂しい気がする。

(中国では簡体字、台湾では繁体字が使われるが、本文は都合により常用漢字で代用した。付表は中文版。別に台湾中文版も作成済)

2021年日本野鳥の会カレンダーの取り扱いについて

事業部長 相原 修一

日本野鳥の会のカレンダーを探鳥会にて斡旋する時期となりました。

コロナ禍のもと、なんとか今年も埼玉会員の皆様に提供できる方法がないものか検討致しました。しかし、安全にお渡しできる方法が見つからず、残念ながら2021年のカレンダーの取扱いは行わないことと致しました。

しかし、日本野鳥の会からは例年と同じく下記の種類のカレンダーが発売されます。

このカレンダーは飾って観る楽しみと、その収益により日本野鳥の会の自然保護活動に役立つものであり、ぜひご購入の検討をお願い致します、

- ・ワイルドバード・カレンダー2021 : 1,540円 日本野鳥の会では会員価格1,320円
- ・しあわせことりカレンダー2021 : 1,100円
- ・バーズ・イン・シーズンズ2021 卓上カレンダー「12か月を彩る野鳥」 : 1,100円

※価格はいずれも税込み価格

【購入方法】

- ① 日本野鳥の会通販カタログからFAXまたはオンラインショップで購入
ワイルドバードカレンダーは会員価格で購入できますが送料710円が掛かります。何本購入しても送料は710円ですのでご友人との共同購入をお勧めします。
- ② 一般書店で購入
原稿執筆時点(9/25)では書店での取扱いは確認できませんが大きな書店では購入できます。お近くの書店に無い場合でも書店から「地方・小出版流通センター」経由で取り寄せ可能と思います。但し価格は1,540円の一般価格となります。
- ③ 東急ハンズ大宮店
一般価格で販売されています。
- ④ ネット通販(AMAZON、楽天など)
現時点では確認できませんが一般価格での購入ができると思われます。送料にご注意。

今年もヒバリが鳴いていました

鬼山正昭(さいたま市)

ここ数年、再開発を待つ新都心の草地の空高くヒバリが鳴いていました。開発が進みバスターミナルもほぼできあがって空き地が消え、これでヒバリも来なくなると思っていました。

ところが、今年も数は減りましたがヒバリがうたっています。雑草の生い茂る空き地はもうありません。どこにいるのか今日も造幣局付近で鳴き声が聞こえます。

4月25日、ようやく見つけてスマホで撮影できました。空高く飛ばず造幣さいたま博物館の屋上の縁に留まってうたっています。都市化が進む新都心にヒバリが適応しているようで嬉しく感じました。

シジュウカラが巣立ちました

石井健次(蓮田市)

自宅の植木の巣箱にシジュウカラが営巣し、親鳥が熱心に餌を運んでいました。

6月17日(水)、ついに5羽が巣立ちました。その瞬間に偶然に立ち会え、写真に納めることができましたのでご紹介します。

ハシボソガラスが飛来する危険な場所でしたが、5羽とも無事に巣立ってくれて安堵しています。





野鳥情報

さいたま市見沼区上山口新田付近 ◇3月28

日、キジ2（鳴く）、カルガモ2、ハシビロガモ♂1♀1（移動中の休憩と思われる）、コガモ16、カイツブリ1、カワウ1（芝川で小魚を捕食）、アオサギ、バン、オオバン46（少し減った）、ツミ、カワセミ4、チョウゲンボウ♀1、モズ1、シジュウカラ（囀る）、ヒバリ4（囀る）、ツバメ3、ウグイス（囀る）、ツグミ、スズメ（求愛行動）、シメ、ホオジロ4（囀る）など（森本國夫）。

蓮田市閩戸 ◇3月30日、小学校の校庭の植木にキクイタダキ。思わぬ出会いが嬉しい（関口明宏）。

川越市古谷本郷 ◇3月31日、タマシギ♂1♀1、田んぼの水路でペアを観察した。クサシギ2（鈴木 功）。◇4月16日、水路でタマシギ♂♀（下写真）。ハクセキレイなど（嶋田富夫）。



さいたま市見沼区膝子 ◇3月31日、「ケキョ…」の声をウグイスと思ったら、体色薄いモズ♂の囀りだった。その後、ツバメ、ホオジロ、スズメの声をまねて、カワラヒワの「ピーン」で締めくくった。4月2日、ヨシ原でホオアカ2、カシラダカ数羽。畑地のタヒバリ3の内、1羽は上面の色が少し薄め。4月8日、ヒヨドリ50の群飛、渡りの気配。ホオアカ1、オオジュリン2、モズ、ツグミ、タヒバリ、ヒバリが目立つ。ホオジロ♀が地面で巣材の草の茎（20cmほど）をくわえる。セッカの声。「ジュビッシュ」の聞きなれない声もある。ウズラと思われる。アオジ♂が囀っていた。4月15

日、木の枝にオオタカ若鳥1、下面是白地に黒斑、赤色味なし。4月16日、同所の別の木にコチョウゲンボウ♀タイプ1、大きめに見えた（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇4月2日、ケリ3。4月16日、ケリ3。1羽は飛来したハシボソガラスを激しく鳴きながら追い立てた。1羽はうずくまっていた。もう1羽は少し離れた所にいた（鈴木紀雄）。

さいたま市西区 大宮花の丘農林公園とその周辺 ◇4月3日、カルガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、サシバ、カワセミ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイなど（嶋田富夫）。

さいたま市岩槻区 慈恩寺親水公園 ◇4月3日、キジ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、バン、オオバン、オオタカ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、シメ（嶋田富夫）。

蓮田市 西城沼公園周辺 ◇4月3日、ヒヨドリが飛んでいるモンシロチョウをGet！

4月7日、2羽のカラスが青空をバックに気持ちよさそうに飛翔。1羽が近づいて下に回り込み、足を上げ背面飛行をしたと思ったら、互いに足をからませて、そのまま回転しながら、地上近くまで錐揉み落下。カラスの珍しいランデブーフライトだった。

4月8日、カシの木に営巣したハシボソガラスのつがい。上空に他のカラスが通りかかると2羽でスクランブル発進。親鳥は大変だ。4月16日、屋敷林からコジュケイの大きな声が聞こえた。久しぶりだ。繁殖してくれるといいのだけど。身体のかななツバメが1羽、屋敷林の樹上を飛んだ。今季ここでの初認（長嶋宏之）。

蓮田市閩戸 ◇4月4日～4月19日、近所の畑の垣根でモズが営巣。畑の持ち主に承諾をいただき、巣立ちまで観察した。親鳥がいない時に巣を確認したところ、5羽のヒナが孵化していた。巣材にビニールなど色々な物を使っているのに驚いた。ヒナは4月

19日に全て巣立ちした。今日は巣立って11日目になるが、近くを通ると餌をねだる声が聞こえるので、まだ親鳥から餌をもらっているようだ。4月6日、チョウゲンボウ♀がカラスを威嚇して追い払っていた。4月7日午前7時23分、今朝の散歩で今季初めてサシバを観察した。南西227°から北13°の方向へ飛んでいった。4月8日、住宅街の用水路にタシギ。思わぬ所にいたのでビックリした。この辺りでの初認（関口明宏）。

さいたま市岩槻区南辻 ◇4月6日、遊水地でクサシギ1、コチドリ2、イソシギ2、タシギ1、コガモ♀3♀2、オオバン2。夕刻なのでツグミ10の水浴び（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区 岩槻城址公園 ◇4月8日、公園内でアオサギの営巣コロニーを見つけた。テニスコートのある建物前の赤松林に10個ほどの巣があり、つがいの数は4組ほどを確認した。一昨年から気づいていたのだが、数が多いので報告する。10個ほどの巣とは言っても小さく作りかけのものもあり全て産卵されてはいないようだ（篠葉利夫）。

松伏町 まつぶし緑の丘公園 ◇4月11日、7～10日前から、綺麗なシマアジが2つがい入った。ヒドリガモの群れの中でのんびり羽繕いしていた（大森茂男）。◇4月12日、シマアジ♂2♀2（下写真）（鈴木 功）。



松伏町 松伏総合公園周辺 ◇4月11日、公園の東の中川近くでノビタキ1。4月16日、公園南縁でヒレンジャク3（尾上愛実）。

草加市柿木町 そうか公園 ◇4月12日、トラツグミ1、シロハラ5。4月18日、ツミ♂若鳥1（鈴木 功）。

越谷市 大相模調節池 ◇4月12日、ミサゴ1。4月15日、コチドリ1。4月22日、コアジサシ2、オオヨシキリ3、イソヒヨドリ1（長野時彦）。◇4月18日、コアジサシ3、今季初認（鈴木 功）。

さいたま市岩槻区横根 ◇4月14日、畑地でムナグロ5、今季初認。1羽の下面が黒くなってきていた（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区馬込 ◇4月14日、湿った耕作地でコチドリ4、セグロセキレイ1、ハクセキレイ♂1（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区高畑 ◇4月16日、綾瀬川沿いの電線にイソヒヨドリ♂1、下の手すりや草地に降りたりしたが、一声も鳴かず。細長い虫をずっとくわえているのかと思ったが、よく見たら、クチバシの奇形。上下とも長く伸びて、イスカのようにクロスしている。上嘴はハマシギのように下に曲がり尖っている。下嘴も長く伸び、上に反っていて途中でプツンと途切れた感じ。かわいそうに思う（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園 ◇4月16日午後6時前後、ツグミが次々にハンノキの小さい林に飛来し、下の笹藪に墜入りしていった。全体で30ほど。鳴き声からシロハラもいたようだ（鈴木紀雄）。

川越市 伊佐沼 ◇4月16日、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、シマアジ、コガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオハシシギ、アカエリヒレアシシギ、ユリカモメ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、コムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイなど（嶋田富夫）。

さいたま市の鴨川 ◇4月17日、学校橋の近くの藪でキビタキ♂1、「ピッピッ クリリ」と小声で鳴きながら枝移り。モズ4+（大塚純子）。

表紙の写真

スズメ目ヒタキ科ツグミ属ツグミ

色づいた木の葉の重なりには、渡って来たばかりのツグミがよく似合う。

寺添捨男（さいたま市）



12月も、事前予約制の探鳥会を開催します。 普及部

12月の探鳥会もすべて事前予約制です。普及部ではコロナ禍の下でも探鳥会を安心・安全に開催できないかについて検討してきました。その結果を踏まえた新たな試みです。事前予約制にして参加人数を絞ることにより、ソーシャルディスタンスを維持しやすくするなどして、感染のリスクを極力抑えようという趣旨です。したがって、予約なしでの当日参加はできませんので、ご承知おきください。

3件共通の開催要項は以下のとおりです。ご協力、よろしくお願いいたします。

1. **日本野鳥の会埼玉会員限定**の事前予約制とし、申込者数が定員を超える場合は抽選とする。(抽選結果は、申込者全員にメールでお知らせします。)
2. 申し込み方法は、コロナ感染状況に(メール等で)迅速に対応するため、当会のホームページからの申し込みとする。(11月初旬に、ホームページに申し込み様式を掲載する予定です。)
3. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」(『しらこぼと』2020年9月号p2-3)に沿って実施する。
4. 参加の必須条件として、各自でマスクまたはフェイスシールドなどの飛沫防止策を講じる。(ご用意のない方は参加をご遠慮ください。)
5. 筆記用具や観察用具(双眼鏡等)は、各自で用意する。
6. 万一、探鳥会開催後に参加者から感染者が出た場合には、参加者名簿を保健所に提出する。
7. 新型コロナウイルスの感染拡大が再度加速する場合は、開催を中止する。(中止の場合は、申込者全員へメールで連絡します。)

さいたま市・民家園周辺探鳥会(要予約)

期日：12月6日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園
駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で「念仏橋」下車。

解散：正午ころ、浦和くらしの博物館民家園。

定員：10名(申し込みが多数の場合は抽選)

担当：須崎、伊藤、大井、手塚

見どころ：芝川第一調節池のベストシーズン到来。調節池なので環境は毎年変化しますが、カモ類・猛禽類を期待して観察をします。予想外の鳥にも会えるかもしれません。ご注意：コースの途中にトイレはありません。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会(要予約)

期日：12月13日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線 柳生駅前。

または午前8時40分、中央エントランス
駐車場。

交通：東武線 新越谷7:23→春日部7:38→南栗橋で東武宇都宮行きに乗り換え、柳生8:10着。

解散：正午ころ、中央エントランス駐車場で。

定員：20名(申し込みが多数の場合は抽選)

担当：佐野、浅見(徹)、青木、入山、大井、小林(み)、近藤

見どころ：谷中湖でカモや猛禽など、渡ってきた冬鳥を探します。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会(要予約)

期日：12月19日(土)

集合：午前9時10分、岩槻文化公園の国道16号側駐車場。

交通：東武アーバンパーク線岩槻駅東口から朝日バス8:43発しらこぼと水上公園行で「村国入口」下車。バス停からご案内あり。

解散：正午ころ、集合地で。

定員：10名(申し込みが多数の場合は抽選)

担当：長野、鈴木(紀)、鈴木(庸)、長嶋

見どころ：トイレが完備された公園内や平坦な元荒川沿いの道を歩いて冬鳥を観察。



行事報告

2月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 32(会員29)名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ キンクロハジロ ホオジロガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ イカルチドリ オオタカ カワセミ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ イカル ホオジロ カシラダカ (39種) 土手を下流方向に歩いたが鳥の数は少なく、期待が薄れてきた。しかし、進むにつれて鳥の数は少しずつ増えて、また期待が高まってきた。荒川の河原に出ると、マガモに混ざりホオジロガモが3羽、ほかにキンクロハジロも泳いでいた。野鳥の森にヒレンジャクが5~10羽来ているという情報があったので、ポイントを回った。残念ながら出なかったが、いつものように池の周りでは4~5種増えた。(茂木幸蔵)

2月11日(火、祝) 狭山市 智光山公園

参加: 78(会員55)名 天気: 快晴

コジュケイ ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ キジバト アオサギ ダイサギ オオバン オオタカ ノスリ コゲラ アカゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ミソサザイ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ シメ (35種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 参加78名! 当地での空前(絶後?)の記録で、2班に分かれてスタート。大人数の熱気が通じたのか、数年ぶりにアカゲラが出現し、キクイタダキが頭上を飛び交って探鳥心を奮い立たせてくれた。カモ類はお馴染みが揃ったが、常連のカワセミが出なかったのが寂しかった。「枝光を变幻自在に飛び回る キクイタダキはせわしく楽し」(石光 章)

2月12日(水) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 27(会員25)名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ トモエガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ツミ コゲラ アカゲラ アオゲラ チョウゲンボウ サンショウクイ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ ハクセキレイ ビンズイ シメ イカル ホオジロ アオジ (40種) (番外: ガビチョウ) 春のような陽気になった。シジュウカラ、ヤマガラ、ホオジロはさえざり、ウグイスは梅の花の中で今にも歌い出しそうだった。鮮やかなブルーではなかったが数か所でルリビタキの姿。松の葉陰にチラチラするのはキクイタダキ。今回はヒガラも一緒だった。飛んで行ったのはアカゲラ、大きな声がしたのはアオゲラ。賑やかな森を抜け、見ごろとなった早咲きのウメやフクジュソウの花も楽しんだ。(中村豊己)

2月13日(木) 加須市 加須はなさき公園

参加: 23(会員16)名 天気: 晴

キジ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン タシギ トビ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (33種+カモ交雑種1) 開始早々、チョウゲンボウが帆翔し一気に和む。カワラヒワやメジロも活発だ。青毛堀川ではオオバン、コガモ。堤でツグミ、キジ、ホオジロ、空のオオタカを楽しむ。園内に入ると今回のテーマ鳥、シメの識別に盛り上がり、池でアメリカヒドリの交雑種とカワセミを探し、5年ぶりのタシギに満足し探鳥会を終えた。(長嶋宏之)

2月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

宇野澤晃、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、三ツ矢正安、吉原早苗、吉原俊雄



●県立川の博物館企画展に協力

9月26日(土)～11月23日(月祝)、同館令和2年度秋期企画展「タカ ハヤブサ フクロウ ～荒川流域の猛禽類～」が開催され、猛禽類のはく製標本等が展示されます。

展示における解説パネル原稿作成のため、当会がネット上に公開している「埼玉県鳥類リスト」「県内の渡り観察情報」を参考にしたいとの申し出があり、代表・副代表の合議で、協力することを回答しました。

〒369-1217 大里郡寄居町小園 39、同館第2展示室で開催。TEL:048-581-7333、FAX:048-581-7332、毎週月曜日休館(祝日は除く)、開館時間:9:00～17:00、入場料:一般410円、学生・高校生:200円、東武東上線鉢形駅から徒歩20分、関越自動車道花園ICから約10分。

●本部従業員コロナ感染完治 拡大なし

(公財)日本野鳥の会(本部)は9月23日付け公式サイトで「事務所に勤務する従業員1名が新型コロナウイルスに感染していることが確認されたが既に完治、感染拡大はなかった」と発表しました。

万一感染者が出ても、適切に対応すれば拡大を防ぐことができる一例ととらえることができます。

探鳥会などにおける感染防止対策にも、ご参加の皆様のご積極的なご協力をお願いします。

●会員数は

11月1日現在1,499人です。

活動と予定

●9～10月の活動

- 9月14日(火)、『しらこぼと』10月号入稿。
- 9月18日(金)、同10月号埼玉事務局発送分納品。
- 9月19日(土)、同10月号を、『野鳥』誌と同封発送しない会員向け、袋詰め作業、郵便局から発送(海老原教子、海老原美夫、山部直喜)。
- 9月28日(月)～30日(水)と9月30日(水)～10月2日(金)、メール交換による役員会を開催。12月に3回の探鳥会を開催する議案と「私の好きな見沼たんぼ2020」写真コンクールへの副賞提供の議案を承認した。
- 9月28日(月)～10月10日(土)、メール交換による『しらこぼと』11月号編集・校正作業(相原修一、浅見徹、海老原美夫、長嶋宏之、藤原寛治、森本國夫、山口芳邦、山部直喜)。

編集後記

新型コロナの影響で『しらこぼと』が10ページになったのは、今年の5月号から早いものであれから半年が経ちました。

with コロナの新しい生活にも、少し慣れました。事前予約制ですが、探鳥会も再開しました。これからも野鳥を愛で、自然を敬い、豊かな人間関係を築いていきたいです。(T.A.)

しらこぼと 2020年11月号(第440号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社